

<メディアウオッチ> これは1面トップで扱う記事なのか

上出 義樹

新聞の1面トップと言えば、ふつうはその日の記事の中で最もニュースバリューが高いものを扱う場所である。読者からは「新聞の1面は政治の記事が多過ぎる。柔らかい話をもっと増やしてほしい」などの声が聞かれ、とくに夕刊の場合、最近は芸能関係のニュースが1面で扱われることも珍しくない。これまでの固定観念にとらわれない新聞作りが求められているは確かだが、以下で取り上げるケースのように、1面トップの扱いに大いなる疑問が残る記事もある。

「父は温め歌ってくれた」「猛吹雪、助かった9歳少女」

「父は温め歌ってくれた」「猛吹雪、助かった9歳少女」。朝日新聞の4月3日付朝刊1面トップは、こんな美談調の見出しが付いた記事だった。3月2-3日に北海道を襲った記録的な暴風雪の犠牲者9人のうち、自らの命を賭して娘の体を温め続けた末に凍死した父親を題材にしており、泣かせる話ではある。ただ、1面トップで扱うには問題があった。

朝日が報じた泣かせる話 ふつうは社会面だが

記事は、オホーツク海に面した北海道湧別町の漁業岡田幹男さん(当時53)が、猛吹雪のため運転不能になった車から約300m離れた農業用倉庫前で、一人娘の夏音さん(9)を自分の体で温めたり、童謡を歌って励ましたりしたことを、元気になった夏音さんに取材してまとめている。ふつうは社会面の記事だが、夏音さんから直接取材ができたことで独自ダネとして1面に持ってきたのだろう。

美談で済ませない“過信”や“甘え” 記事の扱いに強い違和感

しかし、事故発生当初の記事は、岡田さんが暴風雪の当日を含め真冬でも薄いジャンパーをはおるだけの軽装で車に乗っていたことを報じている。厳しい言い方すれば、今回の事故の背景には、寒さ慣れした道民の“過信”や“甘え”が見え隠れしており、美談で済ますには無理がある。1面トップの扱いはかえって死者を鞭打つことにならないだろうか。北海道をよく知る者としては強い違和感が残った。

ちなみに、地元紙の北海道新聞は3月26日付朝刊社会面で夏音さんの近況を紹介し、自宅を訪ねてきた原田雅美・湧別町長と会話を交わす様子や、「友達と遊びたい」などの肉声を報じている。

(かみで・よしき) 北海道新聞 OB。東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大学院博士課程(新聞学専攻)在学中。